



古今奇談破云野話第五卷之上

⑧ 江口の遊女落情を懐くを珠玉を泥子話

往昔江にれ名里とつる八岸ふゆひかふ降みて家だらうし。後の世に取せよあ
らそがくた三瓦くたあ倉浦柳門結び敷をくくそめぐじとる塙の門より
桃笑ひ柳媚て春宵小糸と遊び長夏一涼と納まじざりひいさなをいぬ
子人は宜かり。霜凝ふ衆も胸と集し。月よとむの星ふささう雨の雪よ
のどろろとろろで通ひまらぬ。人の愚痴を病ふなり。水干は袴とて草履
よ馬をくるじつは下司りさるる人の雨ひろくぬふかり。やんぞりぬは方
の霞をかて君えんをかいとまりてくくせよあれは。後ささめぬ人か
のどろいぬふをいぬれくくひてけしは街のいき。夜即。さるかづれよ
ふひりてまきし味ましくいぬれ月月のみ役せれて。其趣もよむをさるの
際にあるをゆいけれとけつこの詮くさるる。後よ復て河をいぬいさるて家

古今奇談破云野話第五卷之上

つを従を結ぶふふづの情をねむづのくそ右体のもまきりさうを
ゆさうろ。津崎橋本遊君の家まうれどいて泊るぬまうく下めいさ
ぬあかり人の後いあひのあぶとるも。あれはあふ乃宿世の寛なりぬ
わたり。漢土のむく東門圍都の女雲れぬく茶のぬく官仲が女同七百と
聞きしより後には。漢やぬとの末のまき七足を免さうく。親とくわりの
あみ身と棄る。教深い。ゆら遠人旅客を感さるの設けとなりて。世よ女
の教うりせむ人の事うかさん。非禮の地を設けて。非礼を安んじるとの
計なりん。川竹の激へりずして。遠き身のあひのあふぬ地。救ある
遊女の家。文殊。普賢。白妙など。世よ。知らして。此里のわごうとる。わら
善名りたは。家。世。ま。り。て。其。ま。と。バ。絶。び。し。ひ。習。ひ。たり。其。比。は。強
余の時代。西國。上。尚。國。司。の。あ。り。方。て。國。司。代。な。ど。よ。め。を。並。て
あすのう。郡。司。を。あ。せ。る。國。人。の。相。傳。の。を。夫。方。と。い。ふ。あ。り。

そりつ子ふふを安方とせは。は。は。ふ。を。優。上。都。は。は。は。り。たり。つ
と。世。は。わ。る。ざ。り。り。ふ。玉。城。の。尊。さ。と。お。も。國。司。の。館。も。あ。り。別。と。公。ゆ
く。上。國。の。目。系。遊。遊。と。こ。よ。と。親。の。ま。ん。より。あ。ま。欠。り。な。く。れ。た。ま。あ
て。登。せ。り。り。系。と。旅。宿。と。折。り。た。は。館。と。相。候。し。諸。さ。下。諸。あ。る。ま
ら。に。珍。う。た。ぬ。あ。た。く。水。流。く。人。系。あ。り。く。系。流。や。と。田。舎。より。系
い。へ。り。り。の。國。を。長。く。と。う。な。う。げ。旅。宿。の。友。ら。な。く。より。こ。る。播。磨。の
住。人。は。の。熱。官。成。候。と。う。人。者。と。り。興。と。遊。街。の。不。定。あ。る。ま。り。た。
け。の。遊。君。は。の。才。色。優。長。な。る。は。定。て。ゆ。て。の。世。具。と。ぬ。路。を。役。し。は。に
に。熱。き。眼。と。る。の。ま。甲。斐。と。と。る。眼。標。と。と。り。ま。り。め。君。と。と。り。と
ま。つ。と。に。標。と。い。ふ。も。口。惜。り。れ。あ。る。君。と。青。瑠。の。酒。を。酌。と。せ。た。ら。は。れ
ま。向。と。と。んと。室。本。の。刀。自。が。訪。り。日。成。か。さ。終。り。り。其。酒。は。白。妙。と。と。り。と
下。と。系。より。遊。客。を。と。免。九。未。れ。煙。花。と。物。別。と。り。く。人情。の。わ。ら。ぬ。あ。り。

○英神市後編卷之五上

其儀の顔厚く足がうら身で擲ら涙を流る若人あはれなれど。此
君をさへて日を争つてある里の翁も妙が座へ下りて飲め
をこれば粉面皆黒しとどつるる。ふた節白妙を袖てるん。膝
ひききこれ鮮なるがめく眼の林水の泪ぐとく若人月殿を離れ花を
旅よよけるをこのわらう懸色の障乃社の中へ登るまけしうらの巧
ちりやと袖の名ある君をどてるとあひし世に繋つてゆりて。溫柔乃
性い妓女のみと短し。撒漫のよの移息を疾くむ。白妙と情意おぼろ
らそち。是より別て期乃身うんてん。公認。元より白妙煙ををんと
するの心ありふるふが志のあつて。のぬを添くふよ。あひて。後身相
後んてい。い。みおむ。小を。あひ。只。又。なる。人の。想。う。と。思。ひ。く。白。妙。が。こ。こ
に。同。え。せ。ん。底。解。を。ぬ。水。を。の。原。も。敷。き。ら。ば。な。り。あ。げ。く。さ。ん。洞。
睡。目。疾。く。乞。巧。修。白。素。と。い。は。ぬ。敷。と。換。て。ま。る。思。お。と。海。よ。く。く。て。あ

思の底をさぐれば情義をふよ。譬ふまこと。我尚高し。只ある中へ。思
を卓して。其餘巨室大賈白妙をさへんと。は。も。好。ど。小。を。布。袋。付
を用いて。文差。大使。刀。自。笑。と。秋。ど。る。と。た。ま。な。り。此。客。今。を。我。家。乃
揺。鈴。梅。わ。り。と。新。を。と。れ。ど。必。や。怪。人。れ。箇。中。小。聚。寶。盤。ひ。く。囊。中。の
日。空。之。し。て。刀。自。の。笑。氣。漸。く。小。愛。を。困。り。小。布。袋。父。親。男。也。が。経
よ。わ。り。て。終。跡。つ。じ。は。ず。と。書。と。よ。せ。て。回。せ。と。も。月。の。末。月。の。末
延。推。て。帰。心。な。り。後。の。又。の。ぬ。う。と。ま。る。と。と。と。安。後。よ。思。思。ま。と。無
思。の。後。者。より。利。を。以。て。定。め。の。わ。れ。を。休。く。利。足。て。愛。を。男。女。れ。其。情
の。懐。乃。冷。なる。よ。つ。けて。心。の。裡。つ。く。換。と。る。お。ひ。え。自。白。妙。の。思
ほ。け。て。他。を。通。ひ。遠。ざ。り。ん。と。な。る。も。只。身。は。ち。て。あ。れ。ば。今。へ。思
小。布。袋。に。封。し。種。々。無。真。と。い。ひ。他。が。あ。つ。て。出。去。ん。妻。以。儀。せ。と。思
酒。桑。の。人。い。あ。く。詞。や。り。う。小。激。と。る。さ。ら。け。は。し。は。只。ひ。く。思。白。妙。の



ちりて我軍の衣食に窮乏穿ら客み喫ひ。本窓の舊をとりて西朝の
 新きと迎へ彼人こゝに事の一とせし餘り。新や客なりとより知音も踏
 て。まが家へ鍾馗あれど一匹の小鬼もより来りし少女等々美足は一家
 人口水もまじり飽小足は白妙の門戸乃作業屋公の言をまじり
 らいり取りたり。彼人ゆより空もあわだ。大錢を貰して方終りぬ。今
 勿くは客の言をまじりて。たれたる我軍をひきよめし人のつらも
 のと。戸自云。わ君をまじりて彼を退かしてそをたきり向ひ我軍の衣食
 しようそゆん。今いとい貧客に計り討て。他器量ありは我費我匹と納
 せ也。和君彼に眼て出せ。我外一長とかなんき女児を討て。活もん
 他其器量なくばわ君つらんや。空となり。我若後見し一言もなす
 と。彼人今窮りれども本國の家あり。我費を乞ふ事は其の悔も
 甲斐なめん。乃自云。てふちるが衣服をかこさすを賣はくし。終は

てとこれおる。本國のい色なるは。後者どもに安は。彼は。い
 へ。好むるは。ちる。と君が身れ。價相。の。数。あ。は。我。ふ。こ。念。う
 と。妙。教。を。ま。じ。り。て。彼。が。も。ふ。お。な。れ。を。ま。じ。り。し。て。説。き
 一。庄。公。直。と。説。て。端。的。を。ま。じ。り。し。人。と。我。是。と。説。し。何。の。た。り。し。い。あ。ん
 と。後。魁。こ。人。が。向。ひ。居。る。席。の。て。い。ま。ま。を。説。き。た。り。ふ。ち。る。赤。面
 して。さ。る。一。成。ち。る。は。妙。も。傍。よ。そ。も。の。病。て。あ。り。し。が。い。ん。は。公。た
 ど。其。教。を。説。き。し。人。と。い。ふ。乃。自。云。一。算。計。と。云。長。の。齡。時。と。云。な。も
 尚。白。業。の。趣。あり。別。人。た。ら。ば。謙。武。百。疋。を。求。む。し。は。取。今。之。し。こ
 時。た。ら。ば。百。疋。を。求。む。と。い。ふ。二。日。を。限。て。た。る。一。價。と。取。お。し。に
 人。を。い。し。と。い。ふ。二。日。と。い。ふ。乃。自。云。一。算。計。と。云。長。の。齡。時。と。云。な。も
 出。さ。ん。白。妙。取。言。し。て。云。乃。自。云。一。算。計。と。云。長。の。齡。時。と。云。な。も
 を。延。て。約。を。ま。じ。り。し。人。乃。自。云。一。算。計。と。云。長。の。齡。時。と。云。な。も

を切ぎ。日と延し、強をほごん、尚、恥の所なく。鉄は、一面とほご
 ともよく、我家へ入らんや。日、段、僅、女、新、人、有、り、て、お、は、し、こ、く、る、る
 ぞ、と、強、を、ゆ、く、し、て、た、の、は、十、日、と、か、ご、り、あ、ら、む、ご、ん、べ、の、ご、
 我家へ入て、は、ゆ、か、さ、な、白、妙、小、さ、う、が、方、と、な、り、て、い、け、履、其、價、を、あ
 じ、あ、り、とも、思、く、ん、い、庄、公、遠、愛、あ、らん。刀、自、百、匹、な、ら、う、げ、と、ん、ゆ、
 して、老、が、身、六、十、一、近、く、日、お、備、伴、の、長、齋、と、い、う、ん、ど、信、を、背、ん、ぶ、
 か、れた、の、を、な、け、ま、さ、で、お、備、及、に、耻、を、と、と、請、借、な、ま、せ、ぬ、事、あ、じ、若、銀、と
 かり、身、を、約、し、愛、あ、ら、ば、成、け、し、い、み、く、我、を、矢、り、ん、と、詰、て、云、々、く、い、我、を、あ、ご
 じ、れ、鐵、を、女、と、あ、る、く、空、と、な、り、ん。刀、自、さ、あ、ら、ば、執、照、を、あ、せ、ん、と、老
 氣、を、強、て、十、日、限、り、の、契、約、を、な、し、あ、ら、ぬ、が、お、ち、あ、足、と、あ、せ、ぶ、か、つ、れ
 ど、い、ん、ど、極、て、女、と、ん、き、お、あ、ら、臨、て、白、妙、云、み、日、と、か、ら、ば、事、の、や、と、必
 ど、せ、せ、ぬ、我、と、販、買、さ、し、は、か、ら、ぬ、お、と、い、て、ま、だ、の、身、の、こ、り、て、京、よ

は、岸、れ、お、官、が、寓、居、し、つ、る、様、を、さ、び、て、身、價、の、と、は、な、め、る、成、變、誠、ある、た、の
 こ、か、れ、た、も、か、ら、う、が、浮、華、多、き、成、ん、と、な、ら、ず、い、は、の、白、妙、の、名、出、し、女、女、な
 り、ん、ど、絹、百、疋、の、ゆ、ら、ん、や、これ、お、費、の、財、を、の、ん、信、な、り、と、い、ひ、て、さ、
 當時、長、し、と、さ、り、て、お、ん、も、お、ち、あ、せ、ん、と、酒、を、み、り、と、な、り、て、入、り、ぬ、ぞ
 より、お、計、お、び、き、も、な、ら、ば、い、い、う、り、あ、ぬ、人、の、家、へ、こ、り、あ、り、て、
 六、日、い、つ、る、白、妙、い、う、と、さ、り、つ、て、日、較、の、内、々、の、守、事、の、ま、と、船、を、ま
 ら、し、と、さ、り、入、り、て、せ、ら、う、近、い、女、と、ん、き、お、い、つ、と、同、ぶ、ら、う、眼、腫、し、涙、を
 た、て、世、に、人、の、情、い、ま、さ、女、と、ぬ、妙、と、い、お、る、が、い、つ、と、さ、り、て、
 共、に、其、の、と、計、お、な、し、と、刀、自、は、事、未、を、調、ら、う、と、披、露、し、て、二、人、酒
 う、ら、の、こ、と、ふ、ら、う、を、懸、め、お、実、し、少、し、の、女、と、ん、き、ま、さ、と、お、い、は、し、を、
 ま、の、時、あ、ら、と、お、し、て、入、り、ま、さ、ら、う、く、お、ち、あ、せ、ぬ、事、を、さ、ら、う、
 山、崎、の、藥、業、津、よ、家、ら、ぬ、ぬ、こ、の、は、も、お、ち、い、ひ、か、れ、掉、さ、ら、う、と、い、て

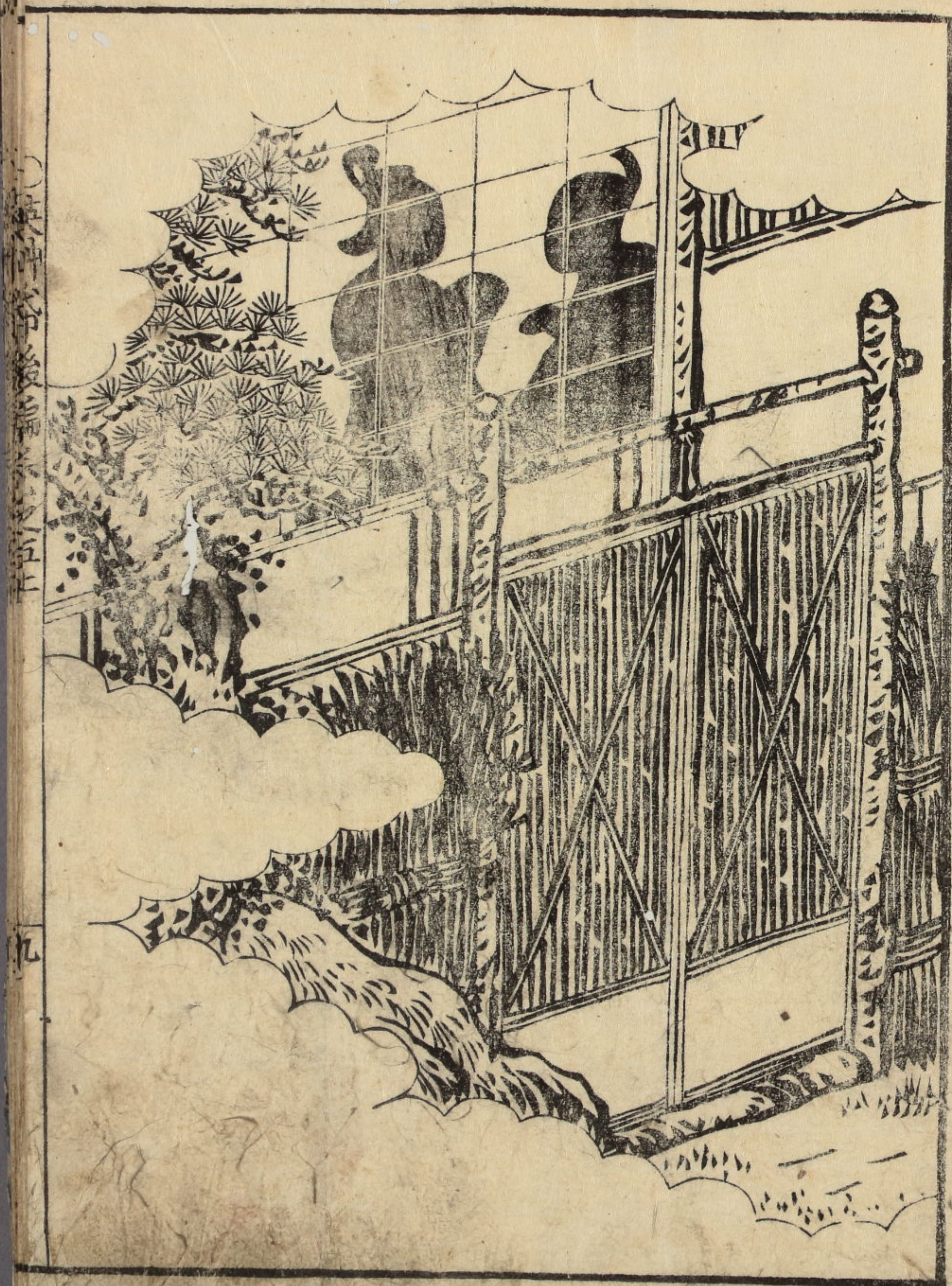
そなたといふは一人とてこの世にほろびぬらんといふことある。ま
おいてまじりかきそしめ曉天よつらて白妙ふを所をゆりさぬ。
我既上鋪とてこれ枕と取て他よあて此世の内よ幾両の砂金とつ
はみかた。是れつらと来月集家取。取去て納しあるはすれ用よ
あてん。其餘の陸方岸屋よ求む数よ充て。限りの日をあやほす
事ありふ。小ち所収て枕をほみおし。成徳と計ふよ六十足れあり。
枕を解らるん。紫れらにゆける砂金兼一計ふよ六十足れあり。
滋養つ。花柳よおす。の類をほ早く身と扱とつ。と標鍾れ聖
言なり。結れども好色の腸に別めて俊傑と改ふとあてり。幸よは
実情あり。是下とあてむく。あてす。我一臂れ力を助らん。こく
して百足の價を各よあて。砂金に難事の費用あり。と其まのよ
色し。吾足下れ情弱なるへ厭りく。くも。其よ是白妙が情れ。情む

いさむ。ふを所収て。謝して江口にかつ。白妙よ是てお調ねと
て。おけて。先日一錢と調らる。今日あ。そ全き。救そのい。ふを
成徳ら。言葉のさ。いとあ。白妙合考。在て。我二人の。を。と
む。の岸。君れ。力。なり。と。深く。其。志。成。感。を。其。日。なり。を。日。の。九。日。な
ま。は。な。ゆ。り。く。妙。ち。之。房。よ。宿。を。妙。云。此。身。價。文。易。と。る。や。い。な。即。時
に。殿。よ。は。て。こ。成。ま。へ。出。舟。の。と。ま。へ。を。は。破。砂。金。或。南。延。と。換。て
新。着。と。志。ま。人。など。此。世。の。の。ふ。り。入。ゆ。り。て。宿。り。る。後。よ。明。朝。つ。う。失
曉。て。り。り。の。り。る。よ。起。て。朝。り。う。ひ。さ。る。所。刀。自。身。あり。て。今日。限。の。十日。あり
約。せ。し。事。い。ふ。ふ。ち。所。収。と。ゆ。ら。し。と。僅。百。足。の。當。よ。つ。銀。二十。枚
即。ら。う。た。あり。と。お。出。た。刀。自。身。を。お。銀。あり。て。今。さ。ら。悔。や。家
氣。あ。り。時。の。白。妙。云。我。此。家。よ。来。て。十。年。生。活。よ。う。と。せ。や。本。意。家
子。の。なる。今日。我。身。の。泥。宮。と。る。い。收。ひ。ま。よ。き。か。る。ん。親。口。は。い。わ。ぬ

白妙の巻

て今其殺の事。丘公の信を失ひ、及び銀持てす。我も月
 茶小舟入つて人と賊と二つが、其いむりんと口は、いぬ怨言とて
 刀自半响詞ありし。より、事とていあらん。口きみ去らる。ゆ
 は平日の衣服調度此房にある物。い、念とてとらへ。口小舟を
 きかく懐といふ。ふを、白妙を房れとて、推出し、鎖を下す。音とて
 詞を、かまさん、厨後、いね、時九月の、先、白妙起て、より、い、梳洗
 せ、垢衣の、膚、その、梳洗、か、た、背、後、を、お、て、来、月、の、梳、洗、の
 う、い、一、身、を、賜、ら、ば、か、い、の、髪、あ、ら、ん、や、我、和、生、ふ、あ、ら、れ、姉、妹、あ、ら、
 して、事、を、い、あ、ら、ん、と、ふ、を、あ、ら、ん、と、言、ふ、其、家、を、出、川、下、の、小、雪、う、家
 して、名、張、惜、す、ん、あ、ら、ん、と、い、ふ、白、妙、が、寝、衣、の、ま、か、ら、ぬ、梳、せ、ぬ
 を、い、て、小、雪、大、に、怒、ら、れ、い、う、あ、い、う、ゆ、い、ふ、白、妙、我、刀、自、の、娘、は、い、た、初、
 作、と、い、ふ、や、と、う、梳、洗、か、ま、さん、小、雪、小、袖、を、取、出、し、白、妙、と、あ、ら、ん、二、人

を、い、う、熱、し、其、取、い、其、中、宿、せ、し、む、妙、を、同、舎、人、と、異、と、る、と、言、て、里
 にある、諸、妓、者、を、あ、ら、し、め、利、榮、想、を、あ、ら、し、め、い、ち、ち、と、言、つ、て、
 醉、を、と、り、あ、ら、し、め、風、流、れ、領、袖、は、良、し、其、人、を、あ、ら、し、め、こ、番、き、
 小、雪、云、二、人、い、と、ま、て、道、近、の、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、小、舟、を、い、て、老、父、道、目、い
 る、は、い、今、又、妓、を、要、す、婦、を、い、は、い、ん、ら、の、や、い、を、い、ら、ん、是、ゆ、に、尚
 万、金、の、計、を、い、て、小、雪、云、又、子、い、て、大、姓、豈、能、後、に、徳、を、い、ら、ん、今、倉、卒、其
 顔、を、い、て、い、ぬ、道、近、の、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、一、人、先、う、つ、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、
 の、ゆ、う、と、い、て、後、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、一、人、先、う、つ、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、
 した、よ、う、と、い、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、一、人、先、う、つ、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、
 とう、と、い、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、一、人、先、う、つ、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、
 強、い、ふ、を、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、一、人、先、う、つ、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、
 七、ひ、水、と、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、一、人、先、う、つ、て、い、ぬ、家、あ、ら、し、め、
 一、つ、の、授、函、を、贈、り、ま、す、二、人



英州氏後編卷之五上

八

にありては安身の期定む。長途のほまぐと感。西軸鏡香
弄種々。是此里衆姊妹の談乃此中。し收りかくおりう。白妙足とて
謝辞終んごう。しつへ。此亦の君達。いひまへ。人々皆さ。と水。はうやう
たうひ。うやう。いわさ。う。何田舎。いひげ。ば。又。あ。き。と。さ。り。朝。ぐ。
これ。を。か。さ。う。の。あ。ま。も。な。ん。い。づ。れ。う。君。も。身。の。う。ら。う。な。く。ふ。と。せ。せ。
さ。う。ま。う。で。た。の。り。げ。あ。る。世。を。あ。あ。と。い。は。ほ。う。と。う。ら。う。な。す。わ。れ。
か。さ。う。必。船。と。も。を。あ。く。と。こ。れ。出。た。去。り。あ。ま。は。ほ。ま。め。の。定。め。る。
き。身。と。あ。さ。れ。ら。じ。か。こ。こ。人。の。大。お。い。う。う。葉。紫。の。候。船。を。お。め。
あ。又。風。を。候。て。船。中。の。九。日。葉。も。な。け。ま。い。妙。が。戲。し。一。枝。を。画。て。そ。上。
賛の詞。人。男。と。こ。も。

解印歸來欲臥家
丁寧莫索塵中種

東山離無菊首堪爬
恐是路傍媚客花

安方。う。る。ん。墨。が。た。の。霜。糸。弄。あ。て。白。菊。と。や。い。ん。你。自。う。謙。して。は
語。函。菊。と。及。り。す。我。足。を。添。ん。と。そ

船の上。と。り。る。り。の。う。ひ。よ。う。う。華。れ。露。かく。妙。の。白。菊
妙。吟。と。華。の。露。い。ふ。玲。じ。う。や。ど。う。と。う。人。仰。初。衣。れ。う。と。あ。り。自。船
て。周。防。の。室。候。し。う。う。船。を。と。り。此。地。と。古。里。の。便。宜。な。れ。風。系。あ。る
ふ。又。寓。居。を。懸。と。箱。崎。の。親。し。き。方。よ。ひ。と。う。た。は。げ。あ。り。て。親。の。を。あ
と。う。か。ひ。せ。せ。晴。る。る。日。は。程。近。き。と。遊。行。し。雨。の。日。は。う。り。り。か。て。海。の
こ。う。ろ。や。と。ん。す。と。い。我。家。の。こ。ら。と。け。り。あ。ん。あ。り。は。い。の。ゆ。た。り
紫。れ。鳴。に。紫。の。酒。部。輔。原。繩。と。由。緒。あ。る。浪。人。何。の。生。業。し。う。け。室
積。し。ね。日。客。寓。し。う。う。う。人。家。の。内。う。り。白。妙。う。男。に。は。と。非。回。と。う。を。え
て。え。う。う。喬。標。の。因。あ。り。て。里。と。あ。る。所。の。路。の。折。つ。と。折。ぐ。と。ひ。い。と。え
よ。具。せ。られ。け。田。舎。と。り。う。と。と。を。依。り。か。り。う。く。存。さ。か。く。跡。と。ん

とあさするの其形はさうくもあれは紫江しんがといふやうくと白妙しやくまうといふやうと
 の上をもつはゆりく。朝夕あさゆふの露つゆにけて其露つゆまきりつるよ。白妙しやくまうの寓あやうより
 出ぬる人ひととあれは紫江しんがを呼よびさあせしむるやうとありと我われのつる
 人家にやうといふるひあまかりつるまぬの人ひとは足あし下したのあふつる人ひとと彼かの者ものを小
 人が見みぬ侍さむらいたるあふ用もちのあふつる人ひとと彼かの者ものを小
 へはともいふ海賊あまぐみのあふつる人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 不ふのあつて海賊あまぐみをさうり捕とらむるがなる人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 べのあつちら統とむるん笑わら止とまるん人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 田舎いんさ人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 のは豊とよ前ぜんとそ郡ぐん領りやうが二に子こいづる具ぐでる賣う女によの決けつ絶たつまはるは我われの
 をも連れん續ぞくさせかんて國くになる親おやへ一ひと生なま射や面めんせむる人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 と當あ津つよ多おほ参ま着ちやし問もん答た救きう日に及および人ひと勝か勝か細こたは生なま射や面めんせむる人ひとと我われの命いのちをまひそふに

とつてははびるん何なにとのかはへて女をを棄あ却かせせ得えたんとて我われの命いのちをまひそふに
 し父ちち不ふ貞ぢんを誦うたへたきと涙なみだを流ながし成なを傾かたて語かた紫江しんがの
 二に歳ざいとわめて親おや族ぞくをあつて涙なみだ切きりつる人ひとと女をの身みあはかのまは
 負おて計けいり我われの命いのちの肉にくも妻つまと扱あつる人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 とあふん。我われの命いのちをまひそふに
 かねば二人ふたりは涙なみだくほみまると紫江しんがの旅りやう店てんをもつて別わかれぬ人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 多おほのあふつる安やす方かたの母ははこれ一ひと族ぞくなり。紫江しんがの親おやりつる人ひとと女をの身みあはかのまは
 不ふのあつて海賊あまぐみをさうり捕とらむるがなる人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 旅りやう亭ていといふとあふつる人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 家いへも血ち脈まと不ふ孝かうの身み一人ひとりは帰かへる人ひとと我われの命いのちをまひそふに
 とそ美み方かたの親おやと我われの命いのちをまひそふに
 今いま女ををさうして不ふ潔けつとすまを打うち斬きると捨すてく人ひとと我われの命いのちをまひそふに

多しと云ふ。當時家勢盛なり一人として大人のまを遣はさる
 あり。誰れ賢足のおふ祖をせられたる人詞をよと人ありとも。若し
 ろとててい却て其人も賢足をそとて返さるるなり。さあれば家業
 を他門の子にゆづりて賢足一は返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 き旅宿のたぐいもいし長久の計より貯を空にし釋はるるなり。返さるるなり。
 進退いれせんよおはけい御の御大業費し返さるるなり。返さるるなり。
 かねばきそを返して悔あるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 ともなり況や娼家の女とて一時たり悔さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 相識の人天下に幾ぞ。或は西國に往く男ありて賢足を彼より返さるるなり。
 きころ。餘人の地の味もさるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 よある世賢足はるる家より返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 後備を賣弄して公の用をゆるぎ也。言を謀り返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。

折んじ、端をえ、隙を捕て必ば事を仕出さん。返したる家ごとを
 親と離るる浪不義の人は天地の間より返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 かへ回せると詞を尋し、説教。元よりと返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 伏し、自失していざ返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 免れん計いひてと返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。
 返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。返さるるなり。

寓しありぬ

古今奇談野話第五卷上終

古今奇談 野話 第五卷下

江口の下

婕妤が恨い更なる人を待たざること女れ身をほろしな増て細
 き旅れ宿に白ぬい小ちるが帰に返りて下せし酒と湯で待たへ
 屋をうぬり来りて其顔色樂ほど酒をも飲と枕しけ。白妙茶は
 何火とんと回ども長き息をほぎと語りて只睡入りぬ。白
 妙心ゆりせん其初種よん成にけて宿を中敷いりて。今夜は
 殿と何とて歩ひるを回らるる袖を擁てきて起言んとて言さる
 と幾度涙腮はほろひかめと涙を肉に飲て胸とさする。白妙いひく
 ちきふを命とまが膝に抱て言を軟めて云彼袖に別て二通れ程の
 久しきぬあつねども千辛か若をかりてくつろ火をぬきぬり
 てちきひをんと心をほろ殿の身の上は悲傷ありていそあらず

英州 後編 卷之五上

てこそんや。小方帝命をあらり。まひつり。より我を心より辱て今日ふ
動はでの情をさるるべきにあらす。我及西後を統をあらす。親むるもの
敵威めておを容と体と知してあらす。不真ゆると付なく。我と体と
落してまぬの偶も保らむと父子の義も絶とせぬべし。今我をな
我と責ふと理乃答べきや。すか割ぐわし。白妙すて一桶のあを
既よりそとぐぬくわらぶ。敵の心いん。我と体との間ふ發と入なきこと
きまぬれば。局をあめてよの打ぎとあらす。あす我がぬふ一計と
かな。と体はは下きと成る。白妙云。ぬれとる。ねとあり。事な
ば何の涙なることわらん。小方帝を辱るす。あてけ計をまらん。為の身を
安んじ。き縁とあらん。津國の人体と引きて。身のよと不あしめ。其謝礼
とて都のくし。持ふし。家傳のた刀。烈祖勇武の寶鞍。發し。あてこ
まふ。還てあらべし。と云。我と。体と。持て國より。若父其遺失。わらを

とを不真もゆす。と計ひ殺ら。たのむは。体も終身より不あり。我
も又母と啼とる。と西後の計ひ。わら。体は。棄て。悲び。と。かこ
て。おの。と。涙。あ。ぐ。ら。白妙。懐。小。を。合。撲。と。押。の。り。て。冷。み。あ。よ
と。一。お。の。い。り。き。敵。の。は。英雄。の。魂。わ。ん。は。侍。女。紅。き。拂。り。ら。る。妓。女
よ。托。き。主。を。知。る。韓。鄆。王。を。卒。伍。の中。に。あ。り。み。わ。ら。び。し。樂。主人。ハ
た。ま。し。く。眼。慧。と。い。わ。れ。た。我。軍。れ。あ。ら。ぶ。不。あ。り。多。く。其。堺。に。あ。り。は
た。温。柔。温。沌。人。を。た。て。終。身。の。偶。と。懇。勤。を。せ。せ。敵。を。な。ら。と
怪。む。は。婦。女。の。古。訓。な。ら。ね。も。東。川。竹。の。浪。花。を。安。免。下。米。世。の。放。誓。
と。希。ふ。の。と。今。や。あ。れ。子。の。義。人。と。幸。他。姓。と。取。り。て。身。を。托。と。る。不。あ。り
は。日。を。と。始。の。情。と。あ。り。終。い。れ。止。ま。実。と。あ。後。乃。策。なる。深。色。也。濃。より
淡。よ。ゆ。れ。ぬ。く。人。の。涙。より。涙。よ。ゆ。れ。や。と。い。ざ。ら。ば。い。ざ。ら。け。と。う。う
ひ。を。應。承。て。此。後。を。な。ら。ぶ。も。ある。但。し。其。た。刀。鞍。と。ら。く。廢。れ。ま。ふ



恩徳を以てしては終末初より入ると世の中より多く入りませ。乃て身
にて娘人の隠具を送りて入ると信じて謝物を以てせんといふ。白
妙身遠なる描金提厨を指して。いふが調度け飽る。一と僕も命にて
隣の籠に送りて置く。紫のさるいら彼ち刀鞘。よ小ち扉が時着れ小袖
まで櫃の裏よりと取りひ盛てかちする。ふる扉を閉る。我を寤る。終る
る。やがて女が身れ人の去書と瓦替て振り。白妙もいんそある調度
までも。遠いむとある。小ち扉とんやま。彼もいんそきく。ておげふ
ゆ。白妙船駕よ出ては紫のさるいらをまひき。やがて其船へあづき。今を
ふる箱の中より小ち扉の護身の香囊あり。これと度一度。はく同
物置く。こゝろと。紫のさるいらはより。白妙が髪。鹿茸。減で。尚
愛敬げき。こゝろにふあがり。て何うたわらひん。は者も命とて箱をかちる。
白妙端とれ出。一開。は内より抽替あり。先。第一層を抽出。内。一冊とる

草紙二品を小ち扉に投けて。是の去。い。ふ。の。白妙が集る。古今
集。よ。八重垣の松抄。ま。は。記。念。の。ま。り。と。今。又。度。一。なる。たり。其。介
たる。い。何。ぞ。と。同。白妙か。ど。て。云。太。素。の。半。次。香。亞。刺。取。の。雀。腦。香。寄
南。沈。水。香。數。種。九。華。丹。律。雪。丹。紫。靈。及。鬼。の。靈。丹。若。く。是。海。上。の
仙。菜。世。の。珍。と。も。る。今。あ。り。て。益。取。一。と。海。中。よ。と。く。と。投。入。う。る。み。す。も
小。ち。扉。と。あ。り。み。ぎ。き。ま。は。れ。も。と。ち。り。て。目。次。放。と。守。白妙。二。層。と。門
か。し。紅。と。紫。紅。包。袱。を。用。け。ば。金。條。環。八。寶。器。珊。瑚。の。枝。と。出。る。柳。汗。乃
緒。は。小。珠。と。る。琳。瑤。混。瑤。火。珠。琬。琰。回。の。自。傳。珍。方。寸。の。中。と。時。を。ひ。り
せ。地。中。海。の。金。珠。赤。小。合。の。中。と。遊。て。奴。若。人。燕。窩。の。安。達。具。扶。桑。江。櫻。附
子。野。舌。猴。玉。几。類。其。數。多。し。白妙。收。て。袱。紗。よ。か。し。は。む。う。う。ん。れ。ば。是。も
海。中。と。投。入。う。る。艶。か。る。女。の。紅。端。と。出。て。と。る。妻。か。た。は。は。何。岸。高。き。れ。人
多。く。集。り。て。惜。し。く。と。云。も。何。の。ゆ。え。と。も。あ。ら。ず。白妙。下。の。層

と引出せば四のまゝ一その運わの具中上等の夜明珠、夜森珠、劍玉、鏝
玉、通天犀、人魚膽、鳳珠、龍珠、其價定めぬは種々なり。衆人見て皆
其珍奇を称賛す。是を投んておろす押して、おろすも熱くして、終乃
其の其設めりて、瓜分りて、悔みおろす。忙迷入。白妙、宋の船、白ひて、夢
ろく罵て云、賤妻、小を命、辰と里と出る。何ぞ容易の事ありん。人の世を
貪り、恩を割る。仇人なれど、神ありば、必ず其人を放つ。何れ。その
面とどと、今日其あると、おろす。世は、はづり、又、急ぐ、をある。董の
涙の、まゝ、紫は、酒、部の、補と、いふ、あり。ま、は、く、不、領、と、も、な、く、何、の、不、徳、あ
りて、家、業、へ、受、て、人、乃、田、宅、重、寶、な、り、成、業、と、し、て、利、を、納、り、て、ま、く
に、難、し。時、く、我、後、一、里、も、有、り、お、ろ、す、あり。人、い、ふ、と、ど、と、や、と、い、げ、人、今、必
より、お、ろ、す、ら、る、海、賊、の、張、手、なる、事、終、ま、は、し。國、と、い、ふ、受、め、る、乃、上、経、歴
と、と、受、め、る、が、定、め、て、は、此、世、も、や、い、ら、ん。げ、ち、力、輕、の、早、く、も、お、ろ、す、と、い、て、之

と、と、若、其、人、か、し、ん、ら、る、た、あ、る、あ、り、行、て、下、お、世、の、や、と、き、ひ、め、の、ん、や、今、小、を
廢、志、定、ら、守、情、の、方、く、下、け、や、と、く。何、と、急、ぐ、も、難、し、げ、な、き、と、と、ら、る、と
ても、か、た、依、ら、ら、め、り、け、り、し。里、の、姉、妹、の、贈、物、と、假、に、お、ね、ま、ど、も、是、こ、と、と、手
末、顧、の、諸、君、都、鄙、の、客、商、の、恵、と、得、る、百、寶、と、し、て、情、人、と、終、身、は、生、活
と、が、い、か、ら、ぬ、設、け、た、れ、も。今、と、め、て、用、め、り、あ、る、し。我、の、箱、の、中、小、お、ね、ま、ど、も
情、人、の、眼、中、一、珠、な、し。是、皆、妾、が、命、の、展、る、所、也。妾、と、不、烟、死、て、出
て、い、儀、び、着、高、を、送、り、新、と、追、う、の、会、な、し。お、ろ、す、の、と、い、ふ、命、は、た、ら、ん、と
い、い、初、め、い、か、り、と、て、妾、へ、辰、と、い、う、手、あ、り、と、妾、と、い、ひ、ら、る。衆、人、れ、る、を
お、ろ、す、お、蓋、入、つ、て、涙、を、流、し。白、妙、お、ね、ま、ど、い、道、を、謝、り、と、す。白、妙、拵、置、き
て、げ、時、い、つ、ろ、て、一旦、彼、船、へ、お、ろ、す、を、多、く、お、ね、ま、ど、や、り、て、寶、運、と、抱、き、て、船、を
た、よ、出、さ、し、其、船、へ、お、ろ、す、と、涙、き、こ、ら、れ、お、ろ、す、と、跳、入、ら、る。船、中、お、ね、ま、ど、お、ね、ま、ど
と、す、る、向、白、波、滾、り、て、影、を、か、し、い、よ、是、と、と

盛粧躍海目無淚

去處俠魂伍綠珠

いやいなき傍人皆身をうとて小ち命と笑ひのちる。宋江は海賊と
 言ひやういれんを思ふ。或は船と出し其面衣を脱ぎ南海へ行んとする
 風定くす。大海の沖は船がりともあま。或は海賊宋江と捜ふ。後
 倉の密使國人と殺して船と陸へ取らぬ。今れ女が指打つる
 艦頭は紅衣のりとも船と捕て正せや。宋江とて下死一人も死
 ど綁ちて去る。彼小ち命の船中より出て大に恥入る。かたまりく
 下ぐきりて悟りて死す。女が深情をこしきりては縁会ひたす。彼は
 浮花の身れり。我も若く年の浮氣放蕩。彼は彼が狭小死す。我は
 且ぐ儂又久家ありて感ふ。我もろり。今さう遁世なごせなす。く
 人よ笑まさん。父の不貞を控て家より去る。と。刀刀万れ調子
 を出し時のさぬふり。と。古のふり。お守り小ち命がぬふ。河とつ

縁は方と何とやらん。は冬い年の衰をきて。老の扱は馬騮と嗜む。
 戀のふたれ孔子倒べく。男うあきと。一旦のいろ解家のとう上國
 の人よかり俗情を疏く。ぬをねびや。と。家務をゆづり。司成かじむ。
 扱岸の熱官成難。ふら命が其後信り。かたといふ。と。よ。我も
 國のゆりの期きて。りて大扱岸は船にゆり。と。さ。一。派の少刀と。お
 落し。ろ。お。わ。た。も。家。の。傳。束。お。あ。げ。て。お。さ。せ。す。と。漢。人。と。や。ひ。扱。せ
 り。あ。ま。さ。一。派。の。お。よ。一。の。箱。と。取。り。げ。是。俱。よ。い。飯。の。落。せ。お。わ。り。と
 ち。ひ。て。さ。げ。ら。り。成。難。い。ら。ら。ど。と。用。ら。き。と。な。は。皆。夜。光。珠。の。教。う。て。
 一。角。魚。膽。鳳。塚。龍。珠。と。な。は。ち。守。不。替。每。價。珍。寶。わ。り。彼。漢。人。衰
 美の酒を酔て。成つら。あ。の。額。げ。た。其。扱。女。の。動。作。一。我。は。い。の。白。妙。也
 として。小ち命が。結婚を。遂。げ。る。と。業。江。が。悪。心。を。こ。ら。り。む。い。我。小。ち。命。及。乃
 ふ。と。ん。ん。あ。ふ。す。金。銀。お。り。め。ら。ん。君。も。う。い。が。ま。情。成。さ。り。て。速。く。其。扱。て

漢書卷之九

とるへて事成就せり。是より。げ。君と謝せん。い。ま。漁人。と。托して。百寶と
致と。聊。美。意。酬。ゆ。と。い。ろ。て。け。い。詞。つ。ぶ。女。の。格。俵。わ。く。他。事。と。る。ん。醉。言
し。る。成。體。白。妙。の。靈。わ。る。と。成。て。寶。貨。を。け。ぬ。水。陸。を。設。け。信。養
して。幽。魂。を。慰。し。る。痴。わ。る。ざ。れ。ば。情。よ。あ。ら。ん。死。ざ。れ。ば。使。よ。あ。く。ぞ。と。は。信。養
を。教。え。と。る。の。と。ば。あ。人。の。身。よ。く。あ。ま。り。世。の。風。月。よ。お。よ。め。の。け。一。篇。を
看。破。て。情。の。あ。る。不。真。の。と。あ。る。所。を。知。ら。ば。人。の。笑。い。を。羞。ぬ。戒。も。あ。ら。ん。し

九 宇佐義宗宇津宮世孫を飾て敵を討詰

南朝中務親王の沖子兵部卿尹良親王の遠州と河誕生あり。後
吉野へあり。む。ひ。て。元。中。三。年。大。お。軍。を。賜。了。應。永。四。年。新。田。原。田。柵。井
其。介。の。宮。方。相。議。して。上。野。國。以。途。へ。ま。り。岡。本。山。川。十。一。家。の。令。供。奉。し。
駿。河。國。富士。谷。田。費。次。郎。が。籠。入。せ。れ。よ。り。て。宇。津。の。親。王。と。呼。ば。る。
け。田。費。が。女。子。の。新。田。義。助。の。妻。宮。わ。り。し。ば。其。好。こ。よ。ろ。う。人。富士。十二

郷の諸士殿屋敷の齋好とねとて味方より守護しなる。同くま甲州
武田右馬助館よ入らせむい。そのより上州寺尾の城に移りし。其間合戦
度。こ。い。か。ぶ。同。二。十。年。寺。尾。は。伊。子。良。王。を。強。し。て。奥。の。信。濃。國。宇
孫。六。郎。が。城。よ。り。の。り。其。翌。年。冬。河。國。足。助。よ。移。ら。せ。む。よ。中。並。合。の
大。河。原。し。て。飯。田。ち。ち。約。場。決。す。二。百。餘。騎。を。待。請。ふ。と。ふ。よ。て。支。へ
なる。宮。方。命。と。と。て。我。い。飯。田。約。場。と。お。れ。り。れ。も。味。方。小。島。田。羽。川。徳
谷。と。始。め。お。ふ。人。討。死。し。て。士。卒。も。散。く。し。わ。り。終。り。れ。ば。宮。の。け。れ。が。し
と。ら。て。在。家。へ。入。り。せ。む。い。火。を。放。て。信。生。害。あり。其。後。良。王。も。寺。尾
に。は。座。堅。ま。り。て。柵。井。が。落。合。の。城。よ。移。り。し。其。折。首。尾。州。津。多。二
橋。保。某。の。伊。良。王。の。姻。属。わ。り。れ。ば。け。方。へ。入。り。せ。む。よ。こ。こ。ろ。の。久。合。お。決
して。ろ。の。後。宜。を。あ。く。み。甲。斐。信。濃。を。懸。せ。し。ふ。よ。ま。ふ。比。計。け。飯。田
が。一。旅。を。討。れ。る。約。場。三。郎。供。養。の。軍。せ。ん。と。多。勢。と。ろ。へ。て。襲。身

ふ。椎井貞綱もさへ討死しける。良王其いさふ活のび少い
笛吹作とさへもあつて敗率等追はき。又追は加勢と
して来る人殺ありて二百斗よかりぬ。かゝる津島大橋氏より西進
して常川信矩二百の人殺しを有り合せらば。味方と生れ
か地と。是をみて弱場飯田も上校今川も若く加勢を乞ひ。を連
信をまち軍と固てたれ。上校今川もあまきこの風吹宮
方へ早く回道より津島より立懸んとする人多うし。宇津宮友綱
衆人よむひてや。ぬもあつてさ。このあはれ。いさふ
先公の所難い。来楠と殺し。原田桃井忠死あり。新田義則入道
は。捕志れ玉の。味方の大車い。時ふ迫りあり。あつて是を合戦
のやとる。たれ。間へ只の。ぐん。との。を。て。敵を。あ。び。及。理。を
た。さ。守。残。念。の。さ。ふ。ね。ま。な。り。今。日。此。所。と。逃。は。と。て。津。島。よ。り。ゆ。げ。な。友

軍をさあさる。乃のあ。さ。も。敵。た。り。石。れ。卵。を。壓。ひ。と。さ。し。さ。さ。く
責。し。せ。合。力。し。も。大。橋。殿。を。扱。け。り。の。さ。其。末。の。後。し。も。さ。さ。し。也。
そ。一。お。さ。は。其。所。戦。ど。し。と。や。し。き。断。紅。先。も。く。ま。た。力。の。さ。さ。り
て。世。方。より。あ。り。な。り。て。は。は。い。さ。さ。く。し。り。情。き。負。と。さ。る。あ。り。
今。及。の。君。氏。所。違。ひ。の。人。に。依。奉。さ。先。へ。し。り。し。や。也。け。面。く。さ。さ。近
き。石。原。を。暴。て。勢。を。う。り。飯。田。駒。場。居。前。一。攻。も。な。り。て。違。は。れ。懸。ひ
ま。へ。は。便。り。も。た。前。に。待。う。け。て。殺。し。あ。り。十。分。の。勝。を。は。ど。も。互。格。れ。戦。ひ
か。さ。ば。大。敵。の。氣。を。折。く。べ。し。至。合。の。軍。の。味。方。に。戦。し。志。た。く。敵。の。衆。心
の。地。よ。不。意。と。あ。て。我。軍。と。若。め。り。あ。り。の。で。免。其。心。と。戦。り。げ。な。綱。と
た。の。て。た。十。よ。ふ。つ。の。勝。べ。し。十。よ。ふ。互。格。の。軍。と。さ。さ。り。諸。君。も。皆。勇
る。じ。と。い。何。も。も。軍。援。も。列。さ。る。歴。こ。た。は。皆。を。因。ド。ま。さ。り。今
川。乃。勢。弱。場。と。助。ら。り。し。り。な。り。い。は。し。て。防。ん。と。云。字。依。原。を。回。り。て



進で云。是の味方を二も小分して一は今川をかえりしるあざむくは
 的場成進人といへ小勢二つ小分ちどりたは。皆く者誠智者のこ
 小乞て人殺せり玉で百二百をこいありと判りけり。諸士面を親
 疏をひく進きあふらうらう。今こそ君の侍あるわかれ。未だ其意
 過し合かして玉りれと十七家の人をより頼りけり。由緒厚き
 こより即時に加勢ありぬ。其か家人お立ちぬお強の可き家
 僕乞しくくもくわくぬげども。むといふ事とそと能けけられたは物敷え
 わりとそこす中も。狸たきへ鎖ひびくは布袴のせきひもひ
 とび。馬あふあさるへかく人並に軍とんきめの鞍のさる。其か新田
 殿昔日のらうみ成さひ。宇佐屋上招ずしそとせまるあうれこれ
 二百人の元。後軍を合せて二百人よりなりぬ。軍配は宇佐屋
 津宮五人執ちんと名候。故今川へ大勢なれども是を押ゆへり

やうわ。的場の小勢なれども大勢の軍あり。お軍師へ兵具むらうき
 かて成我うけ玉りんとくげまわはしつて。あお園をとりとる。宇佐
 屋のころらうべき小勢つて二百と援子。北井利貞あむし流れて
 いずれ敵のと氣成奪りりかれば。鬼角二人を扱せぬ。玉ありし
 とてあめり其旨いひ。宇佐屋定頼即日出るは。味と宇津宮とい
 ひて。感して事すべし。北井村のさり。今度の軍の必要ととる。あま
 書てあふらうへつて。あ細たんと巻紙に書けし。宇佐屋とあ
 一字をうけとあふらう。一可ふ明きければ。あ細の勢の字を書し
 いふの字あり。あ細云。是軍様の秘けられた。二耳に傳へら。下
 して二字。後
 保て向きるべし。宇佐屋定頼とて。あ細が勢字の下に張の字と書
 てり。これに。あ細の定頼と天の字の下に候の字と書て入る。あ
 合せいふもと。馳取る上のれ。あして出立り。かくて今川兵五助へ
 的場が後

結んでし。とて不埒尻を越す所におえりて。赤のふきまの軍とて
て其勢ハ林より入て多ぶらうりびびし。今川軍てそれこそハ官
ごの宇佐兵わらう。百騎あり是れほどきと。林より入て陣のさす
あそ可笑り。他ら不押へられてい。たちらうなだらうとあぐん。一時
はぐて通りやと。又百餘騎を推して敵近くあつり吶喊で戦さうと
こりふ。宇佐兵ハ我んともせず。一騎ものこす。後のふふれのり。之よ
て東のふくく。陣のりは。候ともす。ふたて。か。候。よ。た。お
小射とて出。素川してあぐんと放さ。大おふのふき。所。ありて敵味
るを。之。こ。小。旗。を。執。り。指。揮。と。る。大。本。と。例。し。て。塞。と。め。む。は。白
り。大。石。城。將。を。え。ん。結。搦。り。は。ば。今。川。方。陣。脚。を。あ。り。ど。け。て。ち。れ。と。敵。陣
ら。の。く。ら。う。る。色。射。を。せ。り。れ。も。巖。石。の。楯。と。か。さ。つ。り。て。事。も。や。だ。迎。え
子。若。と。て。は。楯。の。げ。り。あ。比。し。射。て。む。す。又。是。軍。と。あ。い。て。より

つげ。宇佐兵ハ後より吹流したる。味方の赤のふきまを以て。着かば。陣
背に陣とて。石壁の下に風をよぎて。くらと。と。云。り。と。さ。め。あ。ふ
つら。後。より。風。を。げ。き。を。と。て。え。より。味。方。の。陣。を。あ。り。り
は。足。指。を。下。知。し。て。敵。り。く。を。ま。は。り。相。世。を。あ。り。火。と。さ。り。あ。り。
たら。は。ら。火。と。あ。ん。い。り。り。敵。の。こ。た。焼。く。時。宇佐兵下知して楯を
た。た。ま。り。と。う。り。て。喊。と。ど。り。と。上。り。り。は。ば。今。川。方。火。よ。り。敵。と。い。は。さ
め。け。ど。も。大。お。お。到。て。あ。り。焦。が。す。敵。の。焼。あ。せ。んと。談。と。ん。逃。ん。と。や。ば
け。陣。忽。ら。破。べ。し。出。て。敵。と。し。入。合。戦。せ。り。衆。と。ん。げ。は。し。先。と。ん。と。ん
火。と。わ。た。せ。と。て。火。と。あ。り。と。て。敵。よ。り。の。こ。ふ。喊。の。あ。は。へ。し。ら。う。り。え
敵。を。入。り。と。ん。と。逃。む。り。と。敵。の。し。り。り。把。火。の。い。り。り。わ。り。敵。を。敵。ら。れ。れ
後。より。し。り。り。逃。あ。り。せ。り。と。大。本。と。り。の。け。踏。こ。る。ふ。人。救。と。今。川。を
め。て。の。所。敵。と。敵。の。く。ら。ぬ。い。逃。治。し。け。方。より。あ。り。と。か。り。す。逃。ぐ。用。ん



早尾より来るぬらぬ顔てうらぬ佐屋をきくもたぬどしてうら。今白
破而強く人改して他兩人を入る守用心の辨なりと云ふされば了て城一
佐屋より入るといふと入るといふとさうり。守佐屋は津宮内儀して却て敵
めらとてくも敵を討てたり。えまけ佐屋は甚尻大角。大竹千幹進と
いふ人あり。津宮とも入るといふもさうり。近比宮移らせむひて
勢さかたなるゆへを出し来てあふぬ。助場飯田乃五家よりカと後んと
あふふひてうら。口依て思ひ成へて其動静を窺ひらる。次の夕暮津
の衆は諸士れ船をせよ其不意に打べしと云みりり。既に水音
乃祭日ふつらて。今と年いさよとまうり。花菱と云くし十一等船をたうて
酒りり。大吹大振とてうらとて。漁人らも船よりうみてよと来り成り
くは城へ大橋中務のともゆりて。津宮を城内へむくまうべしと。前日より
内堀より小材をとりて入ひうら。かまて掃いけぬ。とてふ。前日も眺ふ白ひて

川の面賑ひあつた時。大竹千幹も六十餘百姓の侍とみ人三人及びはう
侍といふ。雲とて休むれて我の城とらう。おとあけらふ。一日の内外の郭あ
門も大に開き。女房童らとて夜きとて。めとむむむ。津宮不除く大樹の
下よりうら。むあをふ。幹進物を提乃げ。小味方を待あませ。一雨ふ
つもやとく。御前の門へ入る。先其を火をさ。城と云く。早くも彼とて
いふ。彼より火消の者出き。うら。水とて。さうり。て火をお消し。門をひくと
開て。船よりあつとて。うら。津宮守佐屋。あ方よりあうら。とて。出。大勢とて。あ
らみまの斬とて。多く御とら。大竹のうら。死を降ら。あ。あ。あ。して。敵
の船を尋問ひ。い。とて。を奪て。即時に敵を偽引計策をま。城
中
に。此を焼あけ。あり。甚尻。い。六。禮。人。お。と。遣。し。所。く。ふ。ち。お。れ。あ。ふ。
又。お。の。侍。と。日。の。暮。と。待。居。ら。ら。合。國。の。煙。と。て。我。船。に。號。乃。燒。籠
を。さ。う。く。擧。て。味。方。れ。船。に。調。し。あ。ま。せ。城。の。追。ま。と。同。わ。て。し。傳。赤。子。只。今

降つるもの。那燈の籠る船とて大およく告あうとん。宇佐兵衛は
官の勢と率して二艘の快船と合國の笛鞍早拍子とてせしめて燈籠
あり船と目あての向へ十一家の船灯籠を置とめりや早拍子成合せを
集り元より肌具堅固の船とありて其屋瓦が船と志中に入れりて大お
士卒分らなく悉く海に切沈め其時上禮同音の屋瓦瓦らとみさ
いふところより。屋瓦が破りの兵船後よりとむりや早拍子の大変
あつてたぐひと振あひ今いせとめりや二面固かりし家の子ら死を
一變して二百餘人岸より切り切てりや城とてせしめとせせけども夜
家城内逃げたてこの郭へ士卒を引かんとありとてさむくと付入りや
と進む二百餘人おち作りとる及端を海に流すの四はたすふと
大橋中務兵卒を下りて徳よとておび御とる。すむは流の四は自

殺して矢らるどとげり。後綱宇佐兵衛は機をとら守船と死せて
其屋瓦が居城に逼り。諸大お後法として一時は家おせ。早く土地の仕
と出し捷を津海に敵どらり助勢をかき場と引りて逃れ
る。口足より再びも城出さぬ。官の所産不へ年月と真旺し。お朝の
餘音けけきよと音て。屋瓦瓦らとて今もば拍子お乃名とるり
も。久しき世の調かりん

古今奇談繁野話 第五之下卷 大尾

古今

奇談

英草紙前編

全部五冊

先達る出来

明和三丙成年正月

通本町三丁目

江戸

西村源六

心舟橋筋順慶町

柏原清右衛門

大坂

南新町壹丁目

菊屋惣兵衛

○金貞福論

陸奥角浦生氏郷ノ臣因左内ト云フ者富ヲ好ミ金ヲ積ニテ樂シムトカギリナシ家ニ久シキヲ金一枚ヲ藏クニ持テタルヲ聞キヒテ大ニ賞美シ褒美トシテ金十兩ヲ與テハメシ遣ヒケリ論畧

金貞日果

百姓帰家

